



お釈迦さまが説かれた「縁起」の智慧は、仏教の最も大切な核心です。すべての仏教は、この一つの「種」から生まれたものです。

部派仏教（上座部含む）と大乘、金剛乗というそれぞれの「花」は、同じ種から、異なる土地・時代・風土という「縁」によって伝わり育ちました。



しかし、「我が仏教こそが正しい」と主張し始めると、お互いに言い争うような表情になり、自分たちの花と中央の光る大きな花を見比べてしまいます。

真に問うべきは、「なぜこの品種はこの縁でこの形になったのか」という因果の実相を、ただ慈悲の心で直視することです。互いの相違を「縁起による必然の変容」として受け入れるとき、不必要な対立は自然に溶けていきます。

## 縁起による品種容認の結果の巻 by地涌の声